

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 自身の成長を実感し着実に目標に向かって進む精神力、進路実現できる確かな学力、生涯にわたって学び続ける学力を育成する。
- 2 互いの違いを認め合い、社会生活を送ることのできる豊かな人間性、コミュニケーション力を育成する。
- 3 「行きたい学校」「行かせたい学校」として地域から信頼され、地域教育の拠点となる開かれた学校をつくる。
- 4 共生推進教室設置校として「ともに学びともに育つ」学校、規律ある、安全で安心な学校をつくる。

### 2 中期的目標

- 1 自らの進路を切り開くことのできる「確かな学力」を育成する
  - (1) 授業力の向上を重点課題とし、総合学科として特色ある授業づくりに取り組み、生徒が興味関心をもって取り組む授業、互いに学びを深めることのできる授業が全体の7割以上になることを目標とする。
    - ア 授業力向上を目的として校内研修を行い、「生徒が学びの主体となる授業、進路実現につながる学力を保障する授業」をめざす。相互授業見学、公開授業、研究協議の実施により、学びの質を高める。
    - イ 様々な研修機会を積極的に取り入れる。
    - ウ ICT環境の整備に努め、ICTを活用した授業を推進し、魅力ある授業をつくる。
  - (2) 基礎学力を落とさない取り組み、個に応じた進路指導により、個々の生徒の進路実現をめざす。
    - ア キャリア教育計画に基づき、キャリア教育の充実を図る。
    - イ 個々の生徒の現状や課題を把握し、組織的に適切な進路指導ができる体制を整える。
    - ウ 補習や講習の充実、進路カウンセリング体制の強化により、進路実現満足度90%以上をめざす。
    - エ 自学自習の習慣を確立させる。
  - (3) 漢字検定、英語検定などの資格取得を積極的に推進する。
- 2 自尊感情、自己肯定感をはぐくみ、豊かな人間性を育てる
  - (1) 学校行事や部活動を通じて様々な人とかわりながら物事を成し遂げる調整力やコミュニケーション力など人間関係力の育成を図る
    - ア 生徒会活動、学校行事、部活動などにおける生徒の主体的な取り組みを支援し、自主的に活動する力をつけるとともに帰属意識を高める。
  - (2) 共生教育を推進し、「ともに学び、ともに育つ」をスローガンに、生徒も教職員も共に育つ教育を実践する。
  - (3) 人権教育の充実を図り、互いの違いを認め合える豊かな心を育む。
  - (4) 総合学科の特色を生かし、地域交流、国際交流等を推進し、生徒の自己肯定感、自尊感情を育む。
  - (5) ボランティア活動など社会貢献できる体制、自主的に学ぼうとする意欲をかなえる体制を整備する。
- 3 安心・安全な学校づくり
  - (1) 授業規律の確立、一丸となった生徒指導、校内美化・清掃の充実、あいさつ、言葉かけを励行し、安心して過ごせる学習環境を維持する。
  - (2) 教育相談や人権教育体制を充実し、いじめ防止に取組み、安心して学校生活を送れるよう支援する。
  - (3) 広報活動を充実し、地域や保護者から信頼される「開かれた学校」作りを行う。
  - (4) 実践的な危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制の整備を図り、自らの命を守るために行動できる態度を育てる。
- 4 効率的な学校運営体制の構築
  - (1) 学校の教育目標を共有し、スピード感を持って様々な課題を発見、対応、改善できる組織として再構築する。
  - (2) 学校教育の全体像を視覚化し、共通認識を深め、それぞれの取組みの意義を理解し実施できるようにする。
  - (3) ICTを活用した情報共有体制を整え、業務の引継ぎ、情報の共有化、業務の効率化を行う。
  - (4) OJTを充実させ、「学び続ける教員集団」をめざす。

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>&lt;全体&gt; 「学校へ行くのが楽しい」80%、「信頼できる友達がいる」90%、生徒、保護者ともに80%の肯定率であった。経年変化を見ると肯定率は高くなっているため、今後も学校が安心・安全な学習の場であるよう努力したい。</p> <p>&lt;学習指導&gt; アクティブ・ラーニング(AL)の推進を初めてから3年となり、講義中心の授業スタイルからALのスタイルを取り入れた授業も増えてきた。様々なスタイルの授業が展開されるようになり、生徒が解りやすく興味を持って取り組めるものに変化してきた。次年度もよりよい授業をめざして努力していきたい。</p> <p>&lt;生徒指導&gt; 保護者「学校の生徒指導方針に共感できる」肯定率78%、生徒「学校生活についての先生の指導に納得できる」肯定率48%と、生徒と保護者の意識には隔りがある。指導の納得性を高める工夫が必要である。</p> <p>&lt;地域連携&gt; 授業やボランティア、クラブ活動をとして様々な地域活動に参加することができ、成果が得られた。</p> <p>&lt;学校運営&gt; 教員は授業をよりよくしようと積極的に取り組んでいる。学校課題にチー</p>	<p>第1回 (5月13日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒が自主的・自発的に勉強できるように先生が工夫をしている。生徒の様子が生き生きしておりいい学校づくりがされていると感じた。お互いの意見を出し合うワークショップ形式の授業が多く見られた。</li> <li>② 遅刻数が減少していることは大変よい。</li> <li>③ 学力保障については授業見学2回など、提案をはっきり出すのがよい。委員としても何らかのアドバイスをしたい。</li> </ol> <p>第2回 (11月9日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業アンケートをとることはよいこと。ただ、生徒から意見をもらうだけの「やりっ放し」ではなく、生徒たちの意見に対して教員の反応があったり授業の改善があったりすると生徒も教員の良いところを見つけようとするので、先生方もぜひ受け止めてほしい。</li> <li>② 教員側でも、独自に授業改善のアンケートを実施するなど、積極的な取り組みが見られ、すばらしいと思う。</li> <li>③ 地域を巻き込んで、ボランティア同好会ができたのはよいこと。ボランティアは「やるべき」「やってもらう」ではなく「楽しむこと」がベースである。</li> </ol> <p>第3回 (2月3日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3カ年のデータの変化でみると、学校教育がより良い形で変化している。今後も努力を継続して学校教育活動の充実を行ってほしい。</li> </ol>

<p>ム対応するということが浸透し、生徒情報の共有もスムーズにできてきた。学校の教育活動については肯定的な受け止めが多い。今後はPDCAサイクルにより、課題解決をすすめることが必要である。</p>	<p>② 学校教育自己診断の結果を見ると学校のメッセージは保護者に届いていると思われる。 ③ 地域とつながった防災についての活動がされていることは評価できる。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1) 「生徒の能動的学びを引き出す授業」「進路実現につながる学力を保障する授業」をめざし、授業改善に取り組む</p> <p>(2) 自学自習の習慣、家庭学習の習慣を身につけさせるよう取り組む</p> <p>(3) あらゆる教育活動において言語活動の充実を図り、自己表現力を高める</p>	<p>(1) ア) アクティブ・ラーニング型授業に取り組む。 イ) 学力保障と生徒の能動性を引き出す授業研究を目的とした相互授業見学、研究協議の実施 ウ) ICT活用について校内研修を実施し、活用を推進する。</p> <p>(2) ア) SS 道場、土曜講習、夏・冬の勉強合宿の実施等により、自学自習の習慣を身につけさせる。 イ) 学年、クラブ顧問と連携を図り、家庭学習時間を増やし、学力の定着を図る。 ウ) 学年別進路説明会を実施し、保護者との連携を取り進路実現できる体制を整える。</p> <p>(3) ア) 朝読書に取組み、文章読解力、論理的思考力を高める イ) HR や LD、授業を通して自分の考えを文章化する機会を積極的に持ち、論述力を高める。</p>	<p>(1) ア) 自己診断(生徒) 「意見を発表する授業」 H27: 平均 63%⇒70% 「指導方法の工夫」 H27: 59%⇒65% 「わかりやすい授業」 平均 60%⇒65% イ) 授業見学回数一人2回以上 ウ) ICT活用研修 1回以上 「ICTを活用した授業」 63%⇒68%</p> <p>(2) ア)イ) 家庭学習時間1時間以上1, 2年平均⇒40% ウ) 年間5回実施</p> <p>(3) ア)イ) 新「自分の考えを文章にまとめる力が身についた」60% 新「言語活動(文章化)を取り入れた授業の実施」50%</p>	<p>(1) ア) ○アクティブ・ラーニング型授業に意識的に取り組む教員が増加。「意見を発表する授業」73%、「授業の工夫」68%「わかりやすい授業(学力にあった授業)」76%と生徒の自由記述にも授業を評価する回答が増加した。 イ) ○ひとり2回以上を目標に現在取り組み、9割達成。 ウ) △研修の実施はできなかったが、ICTを活用した授業の評価は72%となり、十分な環境とは言えないが、積極的に活用する教員が増加した。来年度に向けて委員会を新設し、ICT活用の推進に向けて検討していく予定である。</p> <p>(2) ア) ○各学年で取り組みを進めている。SS道場は各学年30名、夏の勉強合宿は72名参加(2年7、3年65)、冬の勉強合宿は55名参加。 イ) ○学習時間については二極化傾向がみられ、学習時間のない生徒に学習させる対策が必要ではあるが1, 2年生の45%は1時間以上家庭学習をしていると回答。やや改善がみられた。 ウ) ○学年ごとに予定通り実施。保護者の理解が得られている。</p> <p>(3) ◎朝読は1, 2年で順調に進行中。HRや授業など、自分の意見や考えを文章化する取り組みがされてきている。「意見をまとめたり発表する授業」73%、「文章にまとめる力」は53%の肯定率であった。</p>
2 自尊心、自己肯定感を育み、豊かな人間性を育てる	<p>(1) コミュニケーション力、人間関係力の育成を図る。</p> <p>(2) 共生推進教育の推進</p> <p>(3) 総合学科の特色を生かし、地域交流、国際交流を推進する</p> <p>(4) 自主的な活動を通して学ぶ機会の整備</p>	<p>(1) ア) すべての教育活動の中で、生徒自らが思考し、意見を述べ合いながら物事を達成していく機会を多く取り入れ、人間関係を築く力を育てる。 イ) 学校行事の規制を見直し、生徒が主体性を発揮できるように改善する。</p> <p>(2) ア) 総合学科、共生推進教室双方の生徒の交流の機会を設定し、「ともに育つ」を実践する。 イ) フレンドだよりの発行</p> <p>(3) ア) one day trip、校外清掃、豊中市との連携事業(乳幼児交流)を継続実施する。 イ) 地域清掃に学校代表としてクラブ単位で参加し、小中学生との交流を深める。</p> <p>(4) クラブ活動や個人参加も含めて、学校全体としてボランティア活動を積極的に推進する。</p>	<p>(1) ア) 「意見を発表する」 H27: 平均 63%⇒70% 教員「問題解決的な指導」 H27: 79%⇒82% イ) 「行事が楽しい」 H27: 平均 75%⇒80%</p> <p>(2) ア) 行事の実施2回以上 イ) 各学期2回以上発行</p> <p>(3) ア) one day 1回、校外清掃、学年ごと1回、乳幼児交流3回 イ) 地域清掃への参加者 H27 2名⇒10名</p> <p>(4) ボランティア活動の実施 10件以上</p>	<p>(1) ア) △授業の中にグループ活動を取り入れる教員が増加しており、授業スタイルとして定着しつつある。 (生徒)「意見をまとめたり発表する授業」73% (教員)「問題解決的な指導」76% 次年度に向けては授業研究委員会を新設し、より一層の向上をめざしたい。 イ) ○文化祭の規制を緩和し、飲食模擬店もやりやすい形に変更した。「行事が楽しい」は77%とやや改善。次年度に向けて生徒の主体的な取り組みとなるよう取り組みを進める。</p> <p>(2) ○七夕飾り、クリスマス会をフレンドで企画。総合学科生に呼びかけて実施している。フレンドだよりも予定通り発行できた。</p> <p>(3) ア) ○予定通り実施できた。今年度はさつまいもづくりに取り組み、子ども園との交流を深めることができ、園児、生徒、双方に高い満足感を与えることができた。地域の連携を今後も継続していきたい。イ) ◎生徒会、クラブ生徒など目標を大きく上回る約30名が参加し、小中学生のリーダーとなって実施できた。今後も地域との交流行事として継続していきたい。</p> <p>(4) ◎ボランティア活動への参加者はクラブの地域活動も含めると10件以上、80名に及ぶ。今年度は防災ボランティア推進の国事業の選定を受け、積極的にボランティア活動を行った。1月18日には成果発表会で活動報告も実施できた。</p>

## 府立千里青雲高等学校

<p>3 安心・安全な学校づくり</p>	<p>(1) 安心安全な学習環境の維持</p> <p>(2) 教育相談体制の充実</p> <p>(3) 情報提供を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する</p> <p>(4) 授業公開の充実を図り、地域・保護者との信頼を深める</p>	<p>(1) ア) 授業規律の確立、遅刻指導、あいさつ指導など本校のこれまでの取組みを継続し、遅刻数減少をめざす。 イ) 入学時、仲間作りのワークショップを取り入れ、生徒間の信頼関係を構築する。 ウ) 環境美化に務め、落ち着いた学習環境を整える。</p> <p>(2) ア) 生徒対応の見直しを行い、指導への納得感を高める。 イ) 生徒情報の共有化を図り、学校生活の充実を図る。</p> <p>(3) ア) メールマガジンを活用し、保護者へのこまめな情報提供を行う。 イ) メールマガジンと連携して学年情報をWeb ページに掲載し、わかりやすい情報発信を行う。</p> <p>(4) ア) 平日の授業公開週間だけでなく、土曜日の授業公開日を設定し、授業への信頼感を高める。 イ) 地域の中学校にも授業を公開し、学校間の連携を深める</p>	<p>(1) ア) 遅刻数 1500 件以下 イ) 学校教育自己診断 「信頼できる友だちの存在」⇒90%維持 「クラスの話しやすい雰囲気」H27 84%維持 ウ) 「清掃が行き届いている」42%⇒50%</p> <p>(2) ア) 指導に納得 H27: 平均 41%⇒50% イ) 新「生徒情報を共有し、対応している」⇒80%</p> <p>(3) ア) メールマガジンの発信数 H27: 60 件⇒70 件 イ) web ページの閲覧率 H27: 保護者平均 60%⇒65%</p> <p>(4) ア) 公開授業見学者数 70 名以上 イ) 授業公開期間 2 回設定、土曜授業公開 1 回</p>	<p>(1)◎遅刻数は 1124 件となり、目標を大きく上回った。ワークショップ形式の研修や授業中のグループ活動など、人とかかわる場面が多く取り入れられてきている。「信頼できる友だちの存在」92%「クラスの話しやすい雰囲気」86%「清掃が行き届いている」48%となり、安心して学ぶことのできる環境が整えられていると考える。</p> <p>(2)○生徒への言葉かけなど生徒対応のスタイルをかえる呼びかけをすすめている。生徒情報の共有について 89%が肯定。「指導に納得」は 48%と改善はしたものの、課題の残る数値である。次年度に向けて、生徒対応についての研修等も取り入れ、改善に向け取り組みたい。</p> <p>(3) ア)○メールマガジンの発行数は 50 件であった。目標値に届くよう、担当者と連携し、情報発信に努めていく。 イ)◎情報発信について保護者からは評価されており、Web ページの利用につながっている。閲覧率 69%。メールマガジン、Web ページからの情報発信は 3 年前からは大幅に改善され、機能する形となっている。</p> <p>(4) ア)△公開授業が 6 月の実施となり、授業見学者は 45 名と減少。昨年度は 4 月実施であったので、時期の影響も要因。行事予定の関係で 4 月実施は困難であることがわかった。次年度は重点を防災教育に移し取り組んでいきたい。 イ)○授業公開は 6 月と 1 月に実施。中学校へは 1 月に公開し、中学校教頭をはじめ数名の教員の見学があった。</p>
<p>4 効率的な学校運営体制の構築</p>	<p>(1) 学校運営組織を見直し、教育課題の解決に積極的に取り組むことのできる体制を整える</p>	<p>(1) 業務全体を見直し、効率的な学校運営をめざす。 ア) 業務の引き継ぎ（スケジュール、電子データ、文書）を確実にし、業務負担感を低減させる。 イ) 教育課題について検討する場（ミーティング）を充実させ、主体的に課題解決に取り組む。</p>	<p>(1) ア) 「業務の引き継ぎ」 H27: 62%⇒70% イ) 「会議の結果が学校運営に活かされている」 H27: 64%⇒70%</p>	<p>(1) ア)○様々な優れた教育活動を行っているため、それらを学校として継続できる教育活動として体系化する必要がある。「業務の引き継ぎ」76%、と向上が見られた。 イ)○学年主任会での校時の検討をはじめ、各種委員会で業務の見直しを行っている。企画会議も職員会議の議案整理と検討課題についての意見交換と内容を分けて毎週開催している。将来構想委員会ではカリキュラムの見直し案を検討中である。「会議結果の反映」66%は目標値に届かなかったため、全体の意識として課題を共有するための会議の在り方を検討していきたい。</p>